

Y1354

5

史料館

熱海溫泉圖彙

完

自叙



腕乃痛の長壽痛とうつはも老の足りて  
夢來かく脊中少病のうち身もあ  
まほ熱之海の磯乃膏ゆ少る温泉  
浴せんとて盆前の大ひよりを  
を男兒すすめあれど子乃よし角敷  
を京水城伴ひ七夕もまめの後船  
見ゆて柳の柳町よ近ま京橋城邊

足小田原まで多々二三の豫亭坂にて延  
き橋や雨も遠かうれ外郎がお登り  
さうば左の方よりと左より曲りて熱海  
の道をよしに山駕籠籠（くらわ）あく  
桃尻（ももしり）と乗早川村も難よ越て石松山  
乃星夜更（よるよし）登よしに米嘴村（こめのくち）よ飯臺  
茶屋す根度川（ねね）小賊（こぞく）と取るさきにゆ  
おりまことに附（つ）の豊吹の山越（さんごく）の息

杖（じょう）を憐（あらわ）み蜀（しょく）の羊腸（ようぢょう）登（のり）まへて江  
の浦の眺望（まなざし）を盡（つく）かめく赤澤山（あかざわやま）の角力（すもう）な  
小揚（あひ）もアラシより瀬よき跡（あと）をくまく  
摺（きず）渦（まき）へ三里（さんり）ゆきゆきやとく股（また）の壓定坂（あひさか）のむ  
舟（ふな）ひかる葦子（いのし）うらまて伊豆の岬社（みさきしゃ）子建久の意（けいき）  
釋（しは）リ熟海（じゆかい）をか渡部の客舎（きやしや）よやどすぬ  
北里（きたさと）や西北は屏風（びやう）の峯、坂建（さかだ）よつて冬  
巨櫛（こりせき）城（じやく）をも東南を扇（おうせん）の海を闊て

夏も固處へ移るよむ、びと遠ま大島至  
彩雲の暮をと弛め方あく、近き初嶋ち  
崩立の故屋城ありむ下、仰より中の白忙  
ち天城席すと走り砾乃翁私兵を浪す  
邊て躊躇、若松の堂城據て鳥帽子  
宮昔ひとき、其宣者より滄海巖舟  
脚毛天工自持の大機闕をきふ縞地の御  
内官また続ようとえき繪行狩鳥

あらうと此地より画すり枕掛御の三巡を鑒  
金環を浴ゆかず、歎く所一湯の外かなはす  
さうもあく白駒の陽城空すせんも張三本、四  
手ひじうりすば羈匂のりゆく碑塙濁く空視  
所の間をと記し、京水が瀬戸を加へるの鐵  
の瀬ぐ熱海温泉園彙と題せり旅中の業  
の公忙しけをゆう漏り見ゆりし引かし  
うち書も多うべし例の拙き筆のをひき

旅とくやどみの草引さきびきをとんじてアホ人  
許まりあく

文政庚寅七月廿六日於

熱海之客舍

京山人百樹 識



天保三年辰秋上梓 莊殿

熱海溫泉圖彙

京山人百樹 編

○行程 日本橋よりあさとまちの下取畠記也

日本橋ニリ→赤川川を→川さき名川→赤な川あかなが→程谷宿ゆひやく→  
赤坂あかさか→左沢さわ→赤坂あかさか→平塚ひらつか→大磯おおいそ→雷赤かみの→赤林  
左の方は既小路既ナシマツリとす而る海かいからはりカタマリモアリ あるを處カタマリハ停豆ていとうの浦うらニ  
往來ゆきかの山さんうちこ左筋さきを走はして左ひだりと之ととも石張切いはりに更よ岐路きじゆありとほ西に  
左ひだりとあれどかまちまちよりあるをあり吾われはを走はしハやまとの石いしも厚あつもひらひらだ  
西に足あしが進すすむを止とど不審ふしん内うちの人ひと公こうト馬ば若わ童どうりとわ人ひとハ小田原おだはらをと  
むむ→熱海道あたみみち小酒食こうしょく事こととよも海通かいとえ比ひ→早川村はやかわむら→石橋村いしばしむら  
・石橋山いしばしやまのふと→治承四年八月在鎌大場かんおほばの景親けいしんとたひら古戰場こせんじょうに佐奈番さなばん

の与市義方ウガハシヤハシ者豊三バ戰死の地と道の石とリトト墓あり

▲米崎村▲根府川・御園形あり禁命箱根ふ同ド御手形町人

家主の判百姓ハ村役の判ニ・浪人・野医師・割妻の入・小人等は者勿人但内何人を浪人より医師とも小人とも・余をより根府川石義切るに

石義なり石のむかひ多々一▲江の浦あこみの丘山づき左リ海崖

先まで眺望よし殊ふ江の浦ハ終景ニ▲赤澤村・赤沢山あり東鏡

曾我物語ナズケテ赤沢山ハ武而木あモトス▲河堀村▲吉賓村ニリ久ん

伊豆石破切山モ小裏より程々食の立場ニ▲門河さくら川ナリ▲鳴沢

伊豆山十八丁・伊豆怪現の社の傍ホ在万葉集とひめ古事記名所ニ

○熱海形勝 伊豆国加茂郡葛見庄 江戸七八里

夫熱海と称すア上古此地ア海濱小温泉ある事陽浪城燒也が熱

海と名稱三面ハ山成シとして南の方陰海ト對す東御小通ヲ船  
歛洋、残湯アすらハシ熱海汽水の村ニツアリ和田村蓑口村ヒソハ  
京山あま豆薺のうち客舎の至ありアのう茶社一ト冊アモモモ  
下の辨織ミキサム。ナカモモモ

○熱海三路 ▲北の方小田原の道モド前モナモゲゴト

▲西南三嶋小走道五里 ▲輕井沢 ▲駿寢の沢 ▲平井北峯(モレ)岐モナモ

▲天肥八溝 ▲大塙 ▲三嶋 ▲南の方網代浦モ至二里 ▲和界(モ上多美)

▲下多美(モ中里) ▲小山 ▲和田木 ▲網代(モハシ)

○伊東崎の洞

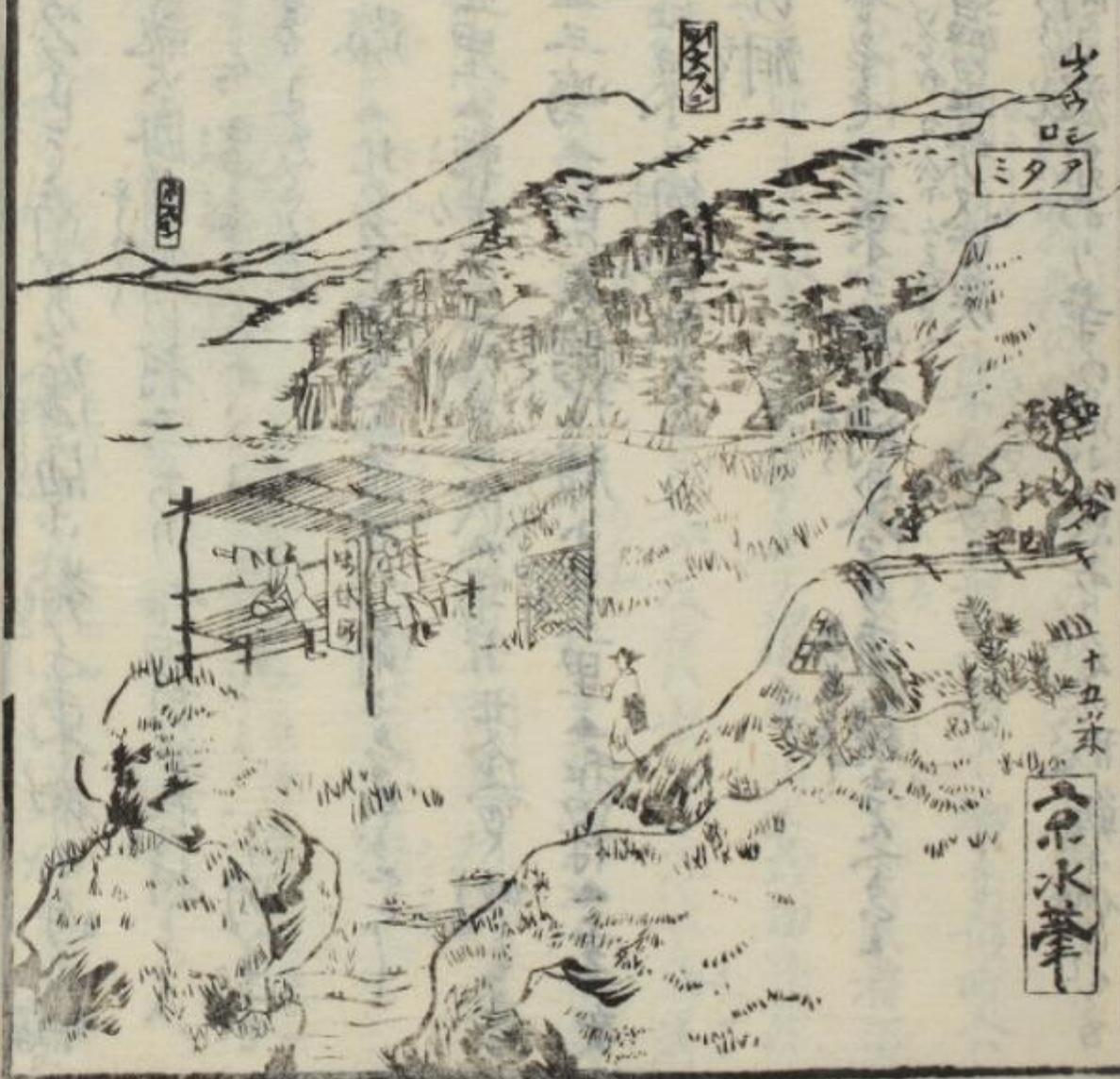
和田泊長頬家の令小よモモ子伊東が崎の洞モ多東鏡モアモモ

○伊東崎の温泉衣怪魚

村の中ノ寺モ寺モ之の側モ温泉あり寺の池モ魚アリモ形鰐モ仰氣モ

江之浦之圖

田上紅波  
浮蓑帆  
潮來白  
浪捲青  
沙凹圍



赤手萬代露  
あとてあくと陽  
ワキテ不老の葉  
トカキく

秋園亭意

因圓

難病あたぢまち  
いやく難大海  
さうがひく  
陽モ  
難草うきく

四谷街  
馬士哥道

四

一  
九  
三

六

鯉ハナマグロ大さか三尺小タリハ二尺其萬錐ツヨシの多くふて鉄錫スチル嘴クモリ  
名ハナマグロ御油カネ紙ハサミ里人ハシマリ人民ハシマリ魚ハシマリ得ハシマリ也ハシマリ  
と此池ハシマリかきりてば魚ハシマリあるも一奇ハシマリとす也ハシマリ

○熱海温泉來由

博物志載雲カシタ不凡水深カシタ石硫黃カシタ有至多水脉カシタ泉カシタかぢカシタ溫カシタありと  
之三秦記カシタ驅山カシタ溫泉カシタ治カシタ人カシタ多カシタ賈カシタ登カシタ之カシタ今  
カカシタ疾カシタ有カシタと此張衡カシタ溫泉カシタ賊カシタ諸カシタ登カシタ散見カシタ唐土カシタ  
溫泉カシタ故舉カシタ之カシタ我朝溫泉カシタ浴カシタ病カシタ療治カシタ少カシタ名命カシタ也カシタ  
耀興カシタ之カシタ據カシタ海カシタ溫泉カシタ人王カシタ二十五代仁賢天皇カシタ御宇カシタトカシタ有カシタ此而  
之海カシタ溫泉カシタ勿心カシタ浴カシタ湧カシタ烟氣カシタ海中カシタ不カシタ有カシタ也カシタ熱火湯カシタ有カシタ也カシタ烟氣カシタ  
死カシタ魚カシタ類カシタ岸カシタ吹カシタ章カシタ惡臭カシタ有カシタ也カシタ也カシタ人跡カシタ無カシタ也カシタ也カシタ星宿カシタ

を歴カシタ入王カシタ三十九代天智天皇カシタ天平宝字カシタの頃カシタ箱根山カシタ高德カシタの沙門カシタあり  
日カシタ方廣經カシタを課カシタ万卷カシタふり故カシタ人呼カシタで万卷カシタ上人カシタと一毛峠  
鹿嶋明波カシタ乘船カシタ之カシタ熟火海カシタ海上成カシタ也カシタ之カシタ濟カシタ之カシタ也カシタ火  
上岸カシタ火爐カシタ諸カシタ魚集カシタ死カシタ大集カシタ熟火カシタ地獄カシタ事カシタ有カシタ也カシタ上  
人カシタ歩カシタ樹カシタ之カシタ急カシタ停カシタ之カシタ經カシタよみ會カシタ佛カシタ唱カシタ之カシタ少カシタく  
よを向カシタ之カシタ海カシタ之カシタ比カシタ海カシタ中カシタ溫泉カシタありそ  
熟火湯カシタを吹カシタ之カシタ魚類カシタ焦カシタ殺カシタ也カシタ吾常カシタ少カシタ有カシタ也カシタ之カシタ多  
老カシタ方病カシタ治カシタ不カシタ思義カシタ冥カシタ湯カシタ海カシタ中カシタ在カシタ也カシタ玉カシタと聞カシタ少カシタ有カシタ也カシタ  
少カシタ有カシタ也カシタ之カシタ佐法カシタ功カシタ力カシタとカシタ上人カシタとカシタ成カシタ之カシタ是カシタ冥湯カシタ成カシタ山里  
少カシタ移カシタ五カシタ魚類カシタ死カシタ也カシタ人カシタ病カシタ助カシタ也カシタ功カシタ徳カシタ象カシタ万葉  
本傳カシタベカシタと云カシタ之カシタ形カシタ之カシタ上人カシタおカシタ也カシタ此カシタ凡全カシタ也カシタ

某師シテ來のハげタんと夜ヨ齋戒セイジケイ沐浴モハシキし海岸の洞マダラへア食エと祈ヒ  
予三日夕滿シムカニ衣後シテの山シマ鳴動ノロトガ一海シマ上の波カク涛カクさマまそマ音百千  
の雷カミツレのハくマをハくシて海シマオ山上シマヤマをハシマテハラマけれを上人岩巖イワヤマをハシマあ  
たりとハなマふハ後シテ山シマの麓シマタケ不雲フクモのハくタちのハがハみアり上入怪アヤシミツシモ不  
小シさシりて不玉シマタケ不山シマタケ山シマタケ石シマタケの間シマタケより熟シマタケ火シマタケ湯シマタケ有シマタケ多シマタケ沐シマタケ洗シマタケ  
最シマタケに水シマタケを呑シマタケびシマタケ我シマタケ念力シマタケの湯シマタケ於シマタケて海シマの温泉シマ不後シマタケり  
かんと上人比曇シマタケとシマタケて某師シテ來を祈シマタケ会シマタケ此溫泉シマ功能シマタケあシマタケトシマタケ方  
民シマタケの病苦シマタケ助シマタケけシマタケ之シマタケの身シマタケ一七日シマタケ立シマタケりシマタケひシマタケ今シマタケトシマタケあシマタケの里シマタケ  
の大陽シマタケと鳴シマタケは是シマタケなり天平宝字シマタケトリ今文政十三年シマタケ小シマタケそそ凡千百余  
里シマタケ人シマタケの碑シマタケ不傳シマタケ百樹別シマタケ考シマタケあれど  
おもく里シマタケ說シマタケ小シマタケど

### ○温泉主治

熱海の温泉シマ関東シマの名湯シマナリト半シマハ遠シマ地シマの山シマ開シマて其功シマ能シマ詳シマ  
子シマ父シマ人シマ多シマけシマ其功シマ驗シマテシマ記シマ中シマ風シマ子シマ足シマ寒シマ歩シマ行シマ少シマ  
まシマセシマホシマト妙シマ眼シマ病シマかシマ良シマ用シマたシマれ日シマの數シマハ七シマ月シマ入シマ湯シマて因シマ城シマあシマ不治シマも  
ヨリゆシマ腰シマの痛シマ肺シマ氣シマ筋シマ痙シマ挛シマ手シマ足シマ折シマ鴨シマ諸シマの虫シマ白シマ痔シマ  
脱シマ肛シマ淋シマ病シマ喘シマ息シマ婦シマ人シマ腰シマ冷シマ懷シマ妊シマせシマ人シマ氣シマ虛シマ血シマ損シマ齒シマ  
の痛シマ火シマ傷シマとシマ瘡シマ腫シマ物シマ金シマ瘡シマ火シマ傷シマ毒シマをシマもシマち全シマく愈シマす  
めシマ右シマ左シマ也シマ医シマ療シマ城シマ不シマもシマか死シマ不シマ妙シマにシマげシマしシマれ脛シマ眼シマ滿シマ癆シマ病シマハ  
社シマ陽シマ城シマ壇シマ一シマ湯シマ火シマ間シマ房シマ事シマつシマまシマよシマきシマかシマく

因シマト云文政十三年七月上旬百樹シマを世シマよシマとほ郡シマの客舍シマ不シマぞシマて  
温泉シマ浴シマ一シマ浴シマ主シマの歸シマ人の始シマよシマ今シマ年春シマの半シマ主シマ不シマ江

余はやて家あへてすふ甲州の人そ某氏の一人の老人娘を中年ので  
女三人下女一人従者二人城具にて宿でけふ等のよきと我ハ疝氣の病  
ありゆゑの娘ふ癱の病ひあまの病志比湯ふ妙かとゆつてあるぐ  
テふ来レシニあくま比婦ふツの奇病ありり比湯を治すとゆゑ  
かと保養うぐふとまく行りあ奇病とどく坐辛以あより昼夜眠  
るをまく心承心が覺て不くさく枯瘦食をまむと廻所とろみ  
人ふ對するも思ふ時とて心勝とて人多め矣せもと發種事が如  
かう病より比湯の利ヤカと同々婦人養てよりはかくらむと癱え  
は温泉よ浴一夕のて全快ありし久く洋々あれ六年の間眠りあ  
がる病根治一久く間もさびに至りて女のおぞ医療のうれ跡  
をうむ曉一ゆづと眠りゑるは氣血のとのひ力ひふらんはソモ  
気血と補ひお心致きらやふ生れ成才の功とおなづらふ浴一夕  
を功能不應トウトキもあくま一さゆとがくまくまもあはとて余  
翁のうも是とよかの女お半日入湯を一月十日余日なしと一あ  
朝食攻喰む時碗城とよて三口とて頻々眠り持て碗をと  
かくとくまくまくせでゆがけられゆとてふ翁をくもあはて余  
よろお宿所(口)全そ即せけふを日も暮れて夜も中もよく眠次の  
朝も月也まきまくして昼夜三月の間息ある元人のごくわが身無くもあ  
よもがふからみて竟東かくちりの主の婦人攻ま稀きもくのは城もくわふ  
へまあれ三日のちで食せばれか病すあらん起しきをかど變  
小間ふ渴人のよ六年が間眠りゑるがとくが一日以一章として六日卧  
りてもかくまくまく甘く睡せりとおのきもとくと眠

万巻を成  
駒千  
縛る  
ちくとく  
じづの  
あんし  
天平の

東山霞

初考

英泉画

圖

萬巻上人  
英源の  
化現逢

因島

萬巻上人  
英源の  
化現逢



せけり才四月の夕より月日を以て起立四日附

十一

今ハ何時也と云はば主の婦人きりふあひて翁を以て七ツ半も

ウルをすふ女もあらざるこれで六年がまそあらグ不二三

よくねりて心なれども人ハタケをめかへやつへと食

りとも寿あらとまつりとソシがまふ婦人きりふ翁を

六年がまそめかへゆすゑをもとく粥とまめウキをあらす

たくもあけふ事ふまきとゆうて給仕下女ふあら

妻かとすもあらすも入のまくをせけを翁さくふあらす

ふまきとゆう一かそほ第才快く寝食すのまくふなす人ふ面おも

ふと煙ふうりまれもうぐきにあら相客の女まみのひま

ふかすて三ツすままで浴て奇病と云ふまく愈け色を翁ま

なり妹もすみ從者まもそまうが翁も妹も病めはれをもく

故ニへいかでゆとりのこれリはおほのつて江戸を某の人幸久さ

腫れのやまとらむ也又ハ他の客舍も諸病の愈すありうたゞ

のまくもあらきられどすのまくのアセリ

○浴法 あらわしき

温泉よ浴て病我治すハ善我服ま不異もや多く其方おほかくさま功善

一がじ切ひあらはる人才一日ハ冬ニまあきとゆきとくに半才半日ハ

あきとあきふ入浴をとる時もとをぎかく我を色す湯のみをいだ

而あら入浴我をなして想あらまうじつ浴場もがまを陽水をいだ

すと入浴をあらび一足我一足の入湯とまう才三日ハ食あ三日翁三日食あ

三度浴を時一昼夜四月四日才五日ハ夜浴六度以上二度才六月才七日四日

右七日戎一まつとソふ下廻りモ病ハ動ムモアリ湯の利ムヘ次の一まつ  
モ病我療治ノ又のまつモ病モ神ハ氣血我との支體モ健ム

### ○湯味

鹹氣アモ苦ツ女モ母ナヘ鹹氣トモ良モ之元トモ祭野人皆湯  
糞衣シテ木綿を纏ムトモ木綿基ギテ比湯を續トアリナシ量のつ  
有トシテ又京ヘ還裏のモチ茶の湯不用モ紫丹モクサ球比陽ホナツモ  
立ムシムシモキモ多カリナツタマニ言の虛ナムモ我信モ湯ハ珍瓈  
ナツナツ水旦のニシ大便アゼド人一碗ミ喫ミセガラウトモ通ゼトス

### ○湯潮 やのつけ

湯の潮ト登夜小三丈長の時小奏潮ハツ時季中町役邊今モ四百六  
五十九日小於月佛殿是成長沸ノ不次の日ハかずモ大勇ネは其城体

多次月傍リ咲枝をあるモ二日城至テアムナ前のか一湯の形勢熱ハ  
鼎小水城煮豆アガニシテ近々蟹の眼のゴロコ拂ツモ足ナフモモチ佛湯  
ナツナツ石龍熟湯を吐クニ間余もアツモ大反鑿湯吐クナラアヌ  
鄉貴雷の子く湯氣雲の子く天小上昇アヌボオのモモよごうむきモ此湯  
を四方の客舍小引き湯繫たゞ冷トセ一ムヤ多里言小大湯ト喰ふ  
モ國城下小モモ諸國小温泉多トシモかるナシ城きモ天工の機、閑奇  
妙石思義の灵湯ナア唐之雞籠山の潮泉小類ナガダガスナハ奇と云ベ  
シ

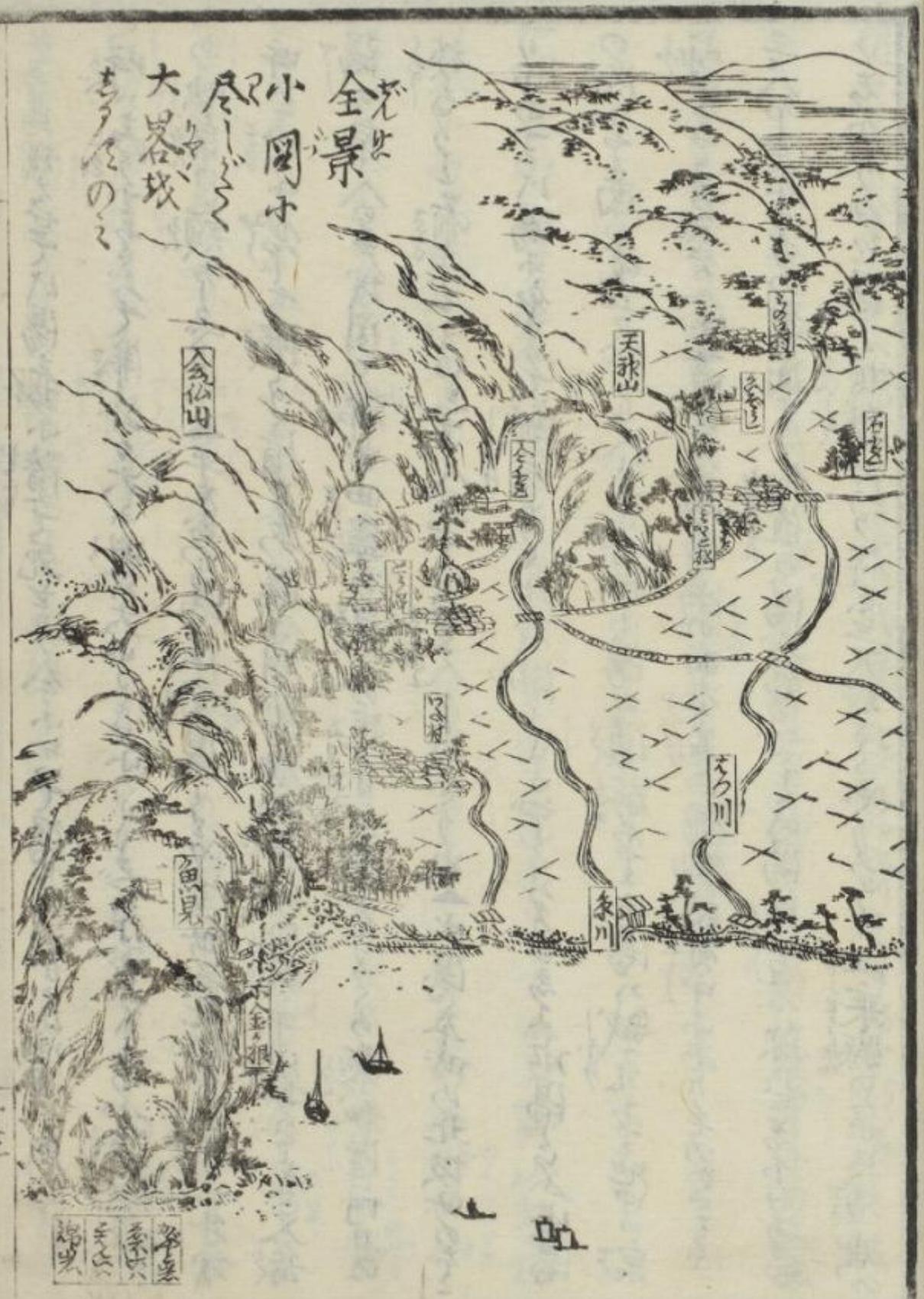
### ○熱海七湯 大陽のかけ代期 そぞくもの

野オの湯上の野ナリ一町余北のモニ山麓小アリモナナ子の土丹のモシ申入  
ヒナガリテ壁ヒメガ又砂ナホ礫アモ金色ありは湯カラテ像ヒシタニ湯  
升ヒタケレギモ▲はな多、湯下の町の北モアリ里説ム云おじ馬走はな

熱海全景畧図

文政庚寅十五春  
仲秋寫

京水華



名馬城を草て比陽毒小障て死せり今少も比陽毒小むく清たゆめり  
味ハあくまきぐて沸び大少味ハ大少よき少くより少くとソ唐毒  
の呴泉の類ナタドー平左衛陽法高陽より上町の北ナオリ人多名城  
味ハあく少度て沸タ清を藍陽よりト唐土茅山の泉半水池ナガキ又毎  
陽の泉人里戸比陽て沸き西寧の泉人の足音少度どくより類和陸四日  
淡よりと前よりの多々人立と里人なりどうぬ水湯本町の北坂町のを  
リ少主比陽少度て鹹氣ちく水城沸一と云てくらかあよ水湯とス水湯  
の隙ヨリ南の方五尺たりヘテモノ所少陽の湧所少主比陽ハ鹹氣重地の泉  
脉をもぐるニ風呂の湯水湯の西在家の大畠庭中少ありそのかども  
三尺やと東の方の石の間うち細流の湯城傍忍を比陽迄さくはあつけあら  
ともあけた比陽と相隣りう僅か三尺城さくをう江乘縣の泉具續城の

湖水半ハ冷キト半ハ熱大一と云すも比陽少比量然奇と申む少たゞ  
左次郎の湯医王寺の川ある少主左近郎と云ひの庄や少ある  
小名で同名の湯下町の東瀬のをもとトある

○山川鳴窟石井

伊豆山 犀牛海の北十八町比山の林鹿を過て小田原少く。上野山勢海  
の東少あり。和田山南少あり林鹿少和田村少主あくまう五町。念仏山  
留山少づきさう高巖ナリ。日金山少く。又西一里余比山少再び登  
二と五六町少て丸山少く。一名十國巖少不近隣の峯少。高巖少  
高巖少。四方不眺全少五の巖十の国城。一周ふ又少や志少十五  
巖少。少終景奇觀筆少少つて。は山くまで山躰踏

多。萬葉の比ハ錦城少て山城つまづがごく。

初家はつあるあくまより海上三里東南ひがしあり方一里ありの小嶋  
なりあくまより眺はるかへ鷺さぎは浮うきらかそくへ古いのちふ沖おきの小嶋と通つうり  
ハ立たたけともよは冲おきの小トこトま或ま通つうトとも教おきのと後ご後ご後ご撰さん和歌  
集しゆよアマトアマト大嶋おおしまより南海上十八里嶋しまの中なかニツの島  
山ありて峯みねよし岬岬リとふくらう凌間山りょうまさんのぞく熱あつ海かいの里人さとひとのあぐ  
は嶋しまの人ひとお特世とくせ不異ふり多た一女めのハ眉まゆ城じゆをを襲しゆ城じゆせふす  
かくなれ装なへて装なさにをむまぶむまぶれ体卷たいまん城じゆと禮れい義ぎとを体たいさ  
貴き絣せんのたがたがあり絹きぬと木綿もくめんと以よていろ近ちか年昌平まさひらの女めの孤こ嶋しま  
うして時とき世せいの粧よ式しきが嶋しまもあれを大嶋おおしまの女めのも時とき世せいの粧よ式しきと以よて  
欲ほされどもは嶋しまの風俗ふうぞくとして醫いん才さいオの女めの成な婚めぐらて女衆めのしゆの射のけと  
女めの風ふう成な同とももこれと俚言りげん小女頭こめのとシナガシナガあふ村中むらなかの女めのもかの時とき

の鳴田なるたの妻めふやんそおづあめの女頭こめのふくろの城じゆを乞こけふ女郎めのうの田たと色いろよ  
あくあくおもおもども装なの風ふうふかぎかぎをまぐあうむむく球くわを今いまくらへ一家いっけの破はれ  
かく一家いっけのやられ鳴なる中の破はれを許ゆしがだだそ今いまふなれ装ななりと  
遠とおき鳴なるよもかる賢婦けんふありハああざざ御ご代しよのをうへへをせせいたれ  
妻めふや体卷たいまんも女めのの風俗ふうぞくの古こ風ふうをまうへ古こき絵卷えまいん球くわをまうへ他鄉たきょう  
交接こうせきする洋よう鶩トリ巣の古風こふうのまま城存じゆぞんとおろおろへ

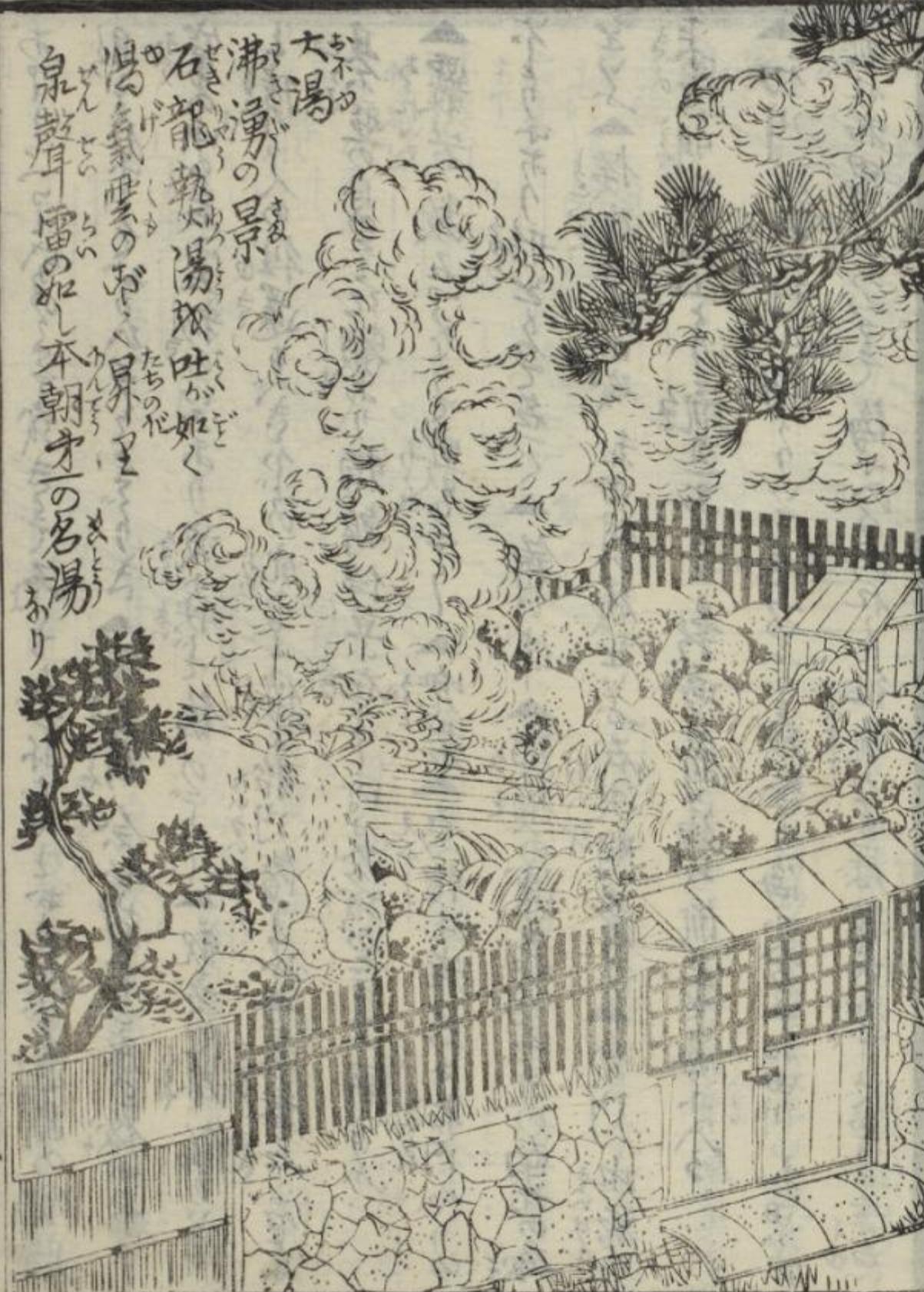
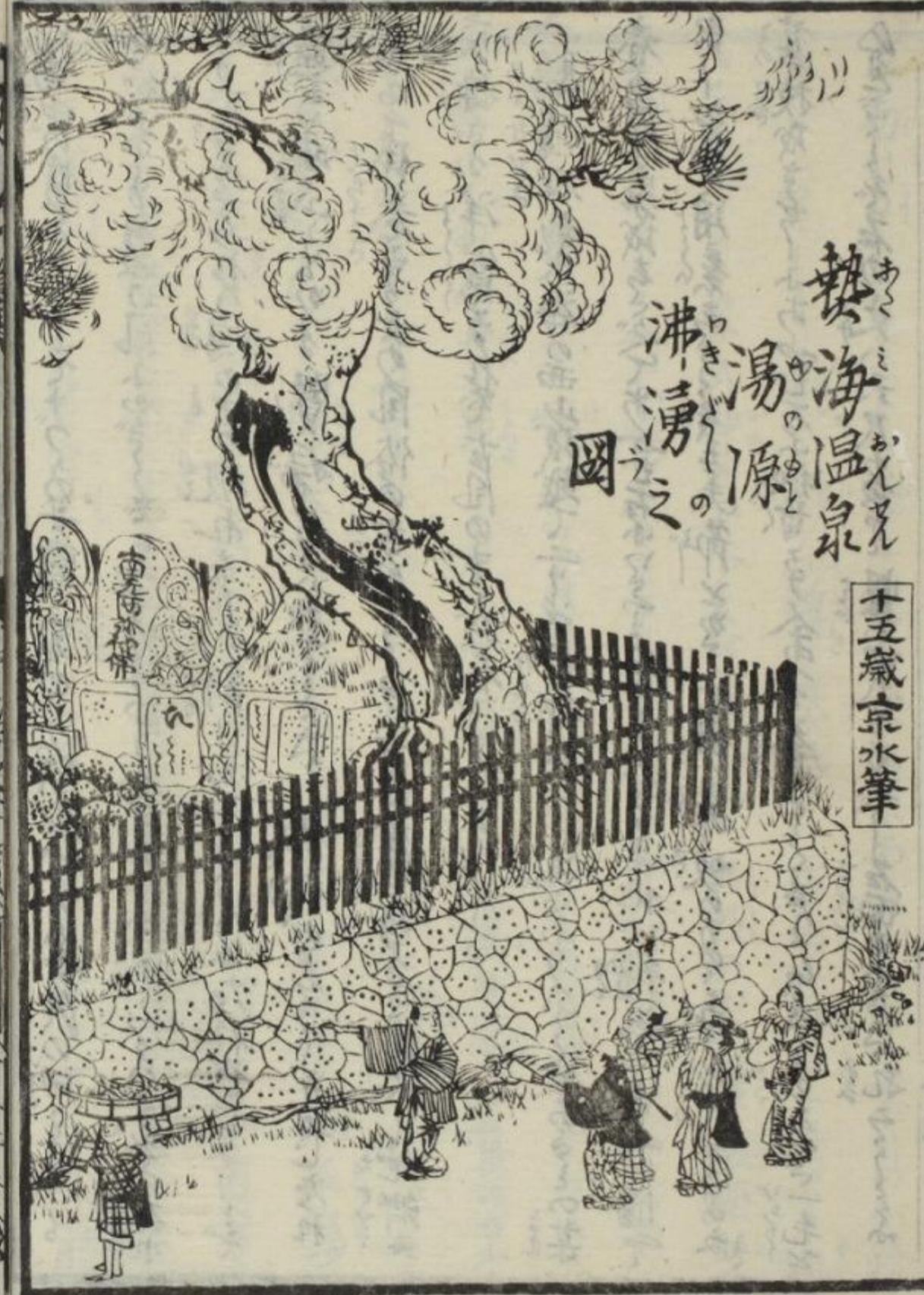
鶲鶴石トリハクシ熟じゅく海かいの西にし山さん越こて二里半丹那村たんなかむらの山間さんかん小こりへせあくまの某  
春はるの日ひ一家いっけ城じゆをうてあむむ石いしはう石いしのままなる平地ひやち小禮おれいあめううで酒さけ  
來き一いか種たね用もちまう妻めふや夫めのを支節しおせとがくを歌うた舉あげ坡はのゆゆあく城じゆ似おなま  
其その技わざ成なまくまくふあも石いしの響ひびきる人ひとあつて音おとごく声こゑとひびきひびきるあくあく一毛いちけい  
金かなきと石いしの丈たけ六尺ろく丈たけを幅ひろ四尺よん丈たけあくあく一石いし面おもてふきふき孔あなくま

十五歲京水筆

勢海溫泉

沸湧原

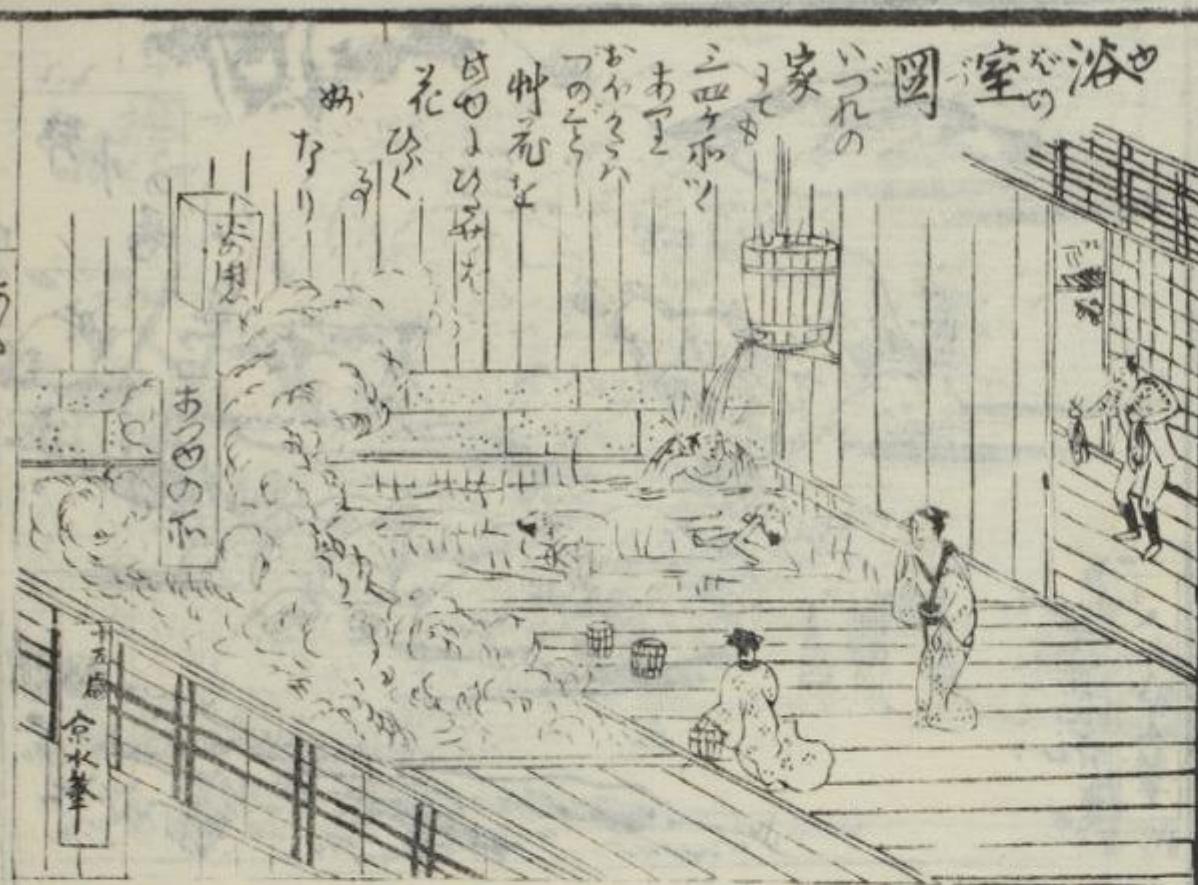
圖



大湯  
沸湧の景  
石龍  
熱大湯  
氣蒸の如く  
泉聲  
雷の如く  
本朝  
名湯

あり

あやまつてはゆるて來きて承もたづ承をとおめりへが廻<sup>カウ</sup>の廻<sup>カウ</sup>臘  
 負まれ乍してかうへとむきだりき▲錦の巖<sup>キシマ</sup>金仏山のすと東の役<sup>ハシ</sup>がある  
 巍<sup>カミ</sup>のゆの岩<sup>カミ</sup>小五郎<sup>コトロ</sup>のうあり波<sup>タヌ</sup>映<sup>ミ</sup>と錦の<sup>カミ</sup>▲觀音の巖<sup>カミ</sup>錦の<sup>カミ</sup>  
 と傳<sup>ヒ</sup>る人の往還<sup>ヨハシ</sup>まきわらの穴<sup>アメ</sup>か<sup>ク</sup>俗<sup>カニ</sup>胎内<sup>タケル</sup>傍<sup>カタ</sup>よふ▲碁盤石<sup>ゴモガシ</sup>石上<sup>シタ</sup>  
 基<sup>カミ</sup>要<sup>ヨウ</sup>の目のこと<sup>ト</sup>を破<sup>ハバ</sup>あり賴朝<sup>アサヒラ</sup>伊豆在<sup>アリ</sup>時<sup>ヒ</sup>基<sup>カミ</sup>球<sup>カミ</sup>立<sup>ス</sup>所<sup>ト</sup>とふ  
 ▲叢岩<sup>アツレハシマ</sup>數石<sup>スモチ</sup>なりと號<sup>イニシヤ</sup>あり賴朝<sup>アサヒラ</sup>伊豆在<sup>アリ</sup>時<sup>ヒ</sup>基<sup>カミ</sup>球<sup>カミ</sup>立<sup>ス</sup>所<sup>ト</sup>とふ  
 不<sup>ハ</sup>より少<sup>アリ</sup>形<sup>カタ</sup>どりて名<sup>ナメ</sup>づく▲錦の浦<sup>キシマ</sup>▲那須<sup>ナス</sup>の浦<sup>マツシマ</sup>胎内<sup>タケル</sup>の南北<sup>カウカウ</sup>の  
 破<sup>ハバ</sup>▲接<sup>タタキ</sup>破<sup>ハバ</sup>▲和田破<sup>ワタハバ</sup>和田村の破<sup>ハバ</sup>を少<sup>アリ</sup>石決明<sup>シモツメイ</sup>▲糸川<sup>ミツカワ</sup>水<sup>ミズ</sup>湧<sup>ミズク</sup>  
 来<sup>カミ</sup>宮<sup>カミ</sup>明<sup>カミ</sup>神<sup>カミ</sup>の山<sup>カミ</sup>より流<sup>カミ</sup>立<sup>ス</sup>あさと新<sup>カミ</sup>宿<sup>カミ</sup>越<sup>カミ</sup>流<sup>カミ</sup>立<sup>ス</sup>て海<sup>カミ</sup>入<sup>ス</sup>  
 ▲初川<sup>シカウチ</sup>蓑<sup>カマキリ</sup>笠<sup>カスベ</sup>山間<sup>カミカミ</sup>より下<sup>カミ</sup>を山<sup>カミ</sup>立<sup>ス</sup>て爲<sup>カミ</sup>徑<sup>カミ</sup>て海<sup>カミ</sup>入<sup>ス</sup>▲和田川<sup>ワタカワ</sup>和田川<sup>ワタカワ</sup>  
 流<sup>カミ</sup>和田村<sup>カミ</sup>を<sup>カミ</sup>と<sup>カミ</sup>海<sup>カミ</sup>の<sup>カミ</sup>辺<sup>カミ</sup>も細流<sup>カミ</sup>ク<sup>カミ</sup>は<sup>カミ</sup>構<sup>カミ</sup>成<sup>カミ</sup>架<sup>カミ</sup>て<sup>カミ</sup>年<sup>カミ</sup>魚<sup>カミ</sup>  
 小泉<sup>カミ</sup>より冷<sup>カミ</sup>氣<sup>カミ</sup>多<sup>カミ</sup>寒<sup>カミ</sup>の<sup>カミ</sup>そ<sup>カミ</sup>清<sup>カミ</sup>徹<sup>カミ</sup>る  
 よ<sup>カミ</sup>水<sup>カミ</sup>湯<sup>カミ</sup>の<sup>カミ</sup>お<sup>カミ</sup>傳<sup>カミ</sup>テ<sup>カミ</sup>む<sup>カミ</sup>比<sup>カミ</sup>東<sup>カミ</sup>朝<sup>カミ</sup>



多<sup>カミ</sup>▲業平井<sup>アヤハタカ</sup>あくま<sup>アキマ</sup>秋<sup>カミ</sup>有<sup>アリ</sup>  
 石<sup>カミ</sup>の井<sup>カミ</sup>肩<sup>カミ</sup>ある<sup>アリ</sup>業平<sup>アヤハタ</sup>の<sup>カミ</sup>破<sup>ハバ</sup>す  
 たりて名<sup>ナメ</sup>づく<sup>ス</sup>▲三點井<sup>ミドリカ</sup>溫泉寺<sup>ウンセンジ</sup>  
 門<sup>カミ</sup>あ<sup>リ</sup>三點<sup>ミドリカ</sup>故<sup>カミ</sup>下<sup>カミ</sup>を雲居<sup>ウンジ</sup>  
 師<sup>カミ</sup>の名<sup>カミ</sup>づく<sup>ス</sup>也<sup>カミ</sup>ある<sup>アリ</sup>方<sup>カミ</sup>の名<sup>カミ</sup>水<sup>カミ</sup>  
 有<sup>アリ</sup>ある<sup>アリ</sup>地<sup>カミ</sup>浴<sup>カミ</sup>の<sup>カミ</sup>金<sup>カミ</sup>賃<sup>カミ</sup>へも<sup>カミ</sup>入<sup>ス</sup>  
 以<sup>カミ</sup>井<sup>カミ</sup>成<sup>カミ</sup>用<sup>カミ</sup>ひり<sup>ス</sup>と<sup>カミ</sup>云<sup>ス</sup>▲雲居<sup>ウンジ</sup>禪師<sup>カミ</sup>の傳<sup>カミ</sup>  
 多<sup>カミ</sup>賀<sup>カミ</sup>一<sup>カミ</sup>杯<sup>カミ</sup>水<sup>カミ</sup>金<sup>カミ</sup>仏<sup>カミ</sup>越<sup>カミ</sup>て細<sup>カミ</sup>代<sup>カミ</sup>替<sup>カミ</sup>  
 小<sup>カミ</sup>や<sup>カミ</sup>み<sup>カミ</sup>徑<sup>カミ</sup>の側<sup>カミ</sup>ふ<sup>カミ</sup>アリ<sup>ス</sup>國<sup>カミ</sup>僅<sup>カミ</sup>不<sup>カミ</sup>足<sup>カミ</sup>金<sup>カミ</sup>  
 小<sup>カミ</sup>泉<sup>カミ</sup>多<sup>カミ</sup>冷<sup>カミ</sup>氣<sup>カミ</sup>多<sup>カミ</sup>寒<sup>カミ</sup>の<sup>カミ</sup>そ<sup>カミ</sup>清<sup>カミ</sup>徹<sup>カミ</sup>る  
 よ<sup>カミ</sup>水<sup>カミ</sup>湯<sup>カミ</sup>の<sup>カミ</sup>お<sup>カミ</sup>傳<sup>カミ</sup>テ<sup>カミ</sup>む<sup>カミ</sup>比<sup>カミ</sup>東<sup>カミ</sup>朝<sup>カミ</sup>



十五  
宗木筆

山城に於て時渴水の多き太刀峠にて  
とくと小泉をまよひりやうめ炎赫ひかく  
くわくするに名水也

神憑童曰とふ文あり又慶長中  
神憑童曰とふ文あり又慶長中

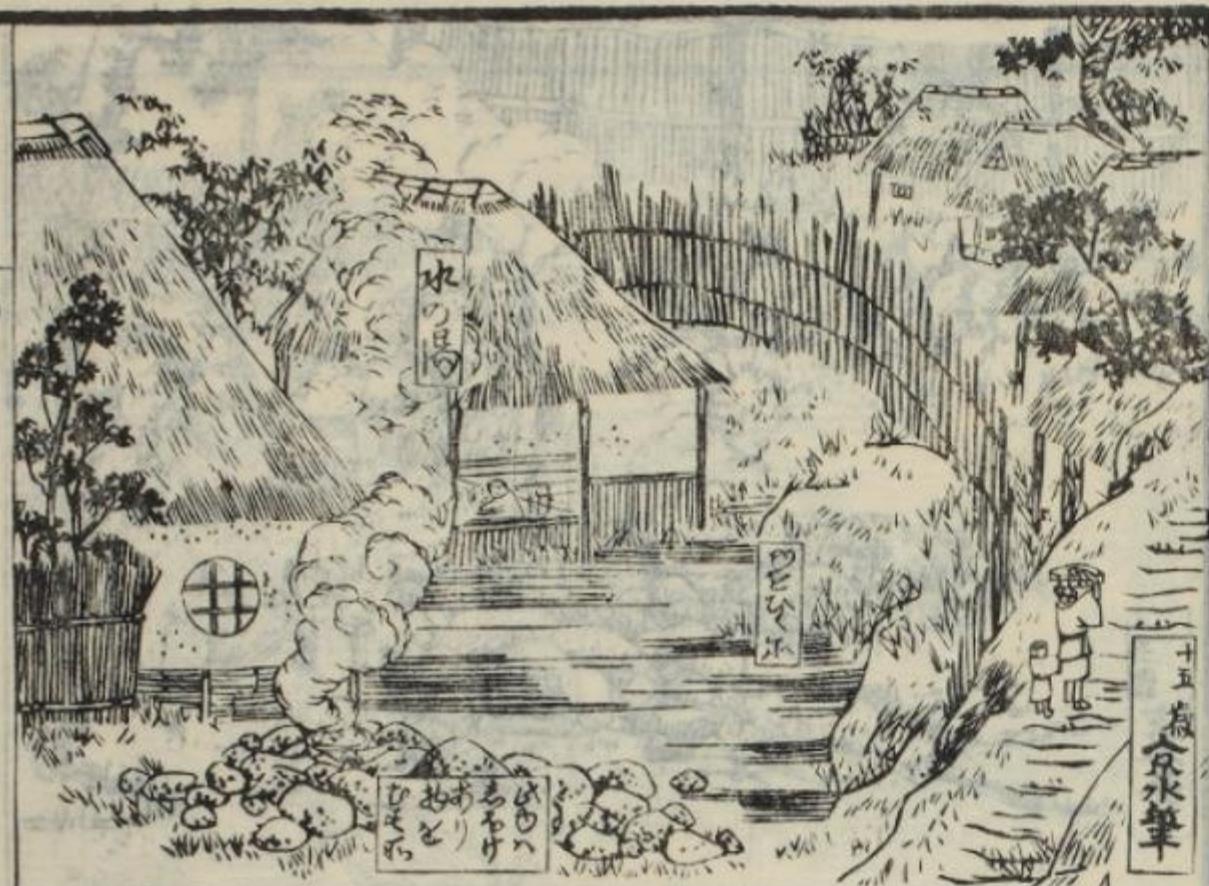
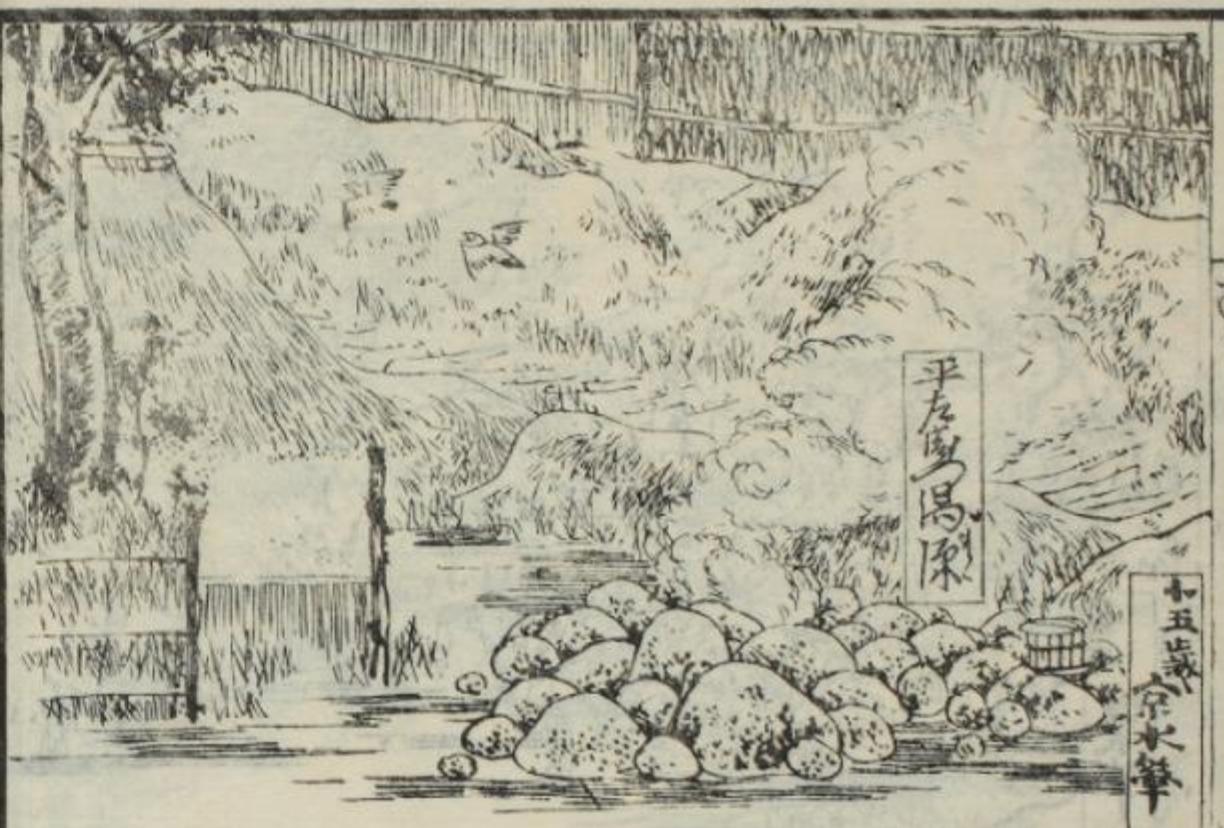
祖のちよ浴ノカドリ寛永十奎  
歎廟本將か浴ノカ元モ命て行殿  
戎構タテ遺跡及調馬場尚存之文  
あり石燈籠西基宝脣、年夏久留  
未の大守とふ浴ノカドリ御寄附をと  
たる子彌つり重石鳥居安政九年の秋  
大寺再び浴ノカドリ御寄附をと  
毎年九月廿日小祭れありと神靈ある  
ことハ里人の口碑トセアリとふやうせり

今宮明神 畑村トアリ松原所ニ

山城に於て時渴水の多き太刀峠にて  
とくと小泉をまよひりやうめ炎赫ひかく  
くわくするに名水也

○神社

湯前權現 上田より一西金西子在  
祀所少彦名命鳥居の傍木碑  
あり明和七年、社八束野なづの文六信  
陽源通魏書、東江平原鱗りんう  
千百余字又は湯泉の起立おきしら立てとあると  
天平勝寔元年己丑七月少名彦  
十五  
宗木筆



四田余ふありやうて海卫シマガノ社カミノミアリし  
エモ逆浪タミナガアリて社城流シマガフしたまふ尊体  
木作キムツ屋下ヤシタ破ハラスふとトきりて立タチたさりし累  
錢シテ今ナウの地ジ移シテしとシテをシテあら東都トウヅ  
人ヒトは地ジは還シ戻シのシちシは神カミとシ信シて感カク  
應エイを得ルるルありて財カミをシして社カミ  
補ヒメニ小宗コノミヤマ以ヘて神祇カミギの博士ハツト  
小束コノミヤマ又タあるル体ヒメニ拜スて大タお誓セイ  
我ワタシもシ菅スガ公ノミヤマ葉繁ハヤシタケふ謫居シキまく  
たシはシもシ真マサニ像シヤウ七シナナ軀クル七シナナ軀クル例リありて

晦クモリ不ハ流ルりり六ロク軀クルハハ流ル停スル不ハ  
事ハそシ真マサニ体シヤウとシ祀スル事ハの宮ノミヤマ今ナウ小  
在アリ其シ一イチ軀クルいざシのシ地ジふ漂ハラス流ル  
やシさシぎシさシぎシみシけシうシ像シヤウ三ミ七シナナ軀クル  
ほシてシ菅スガ公ノミヤマの神作カミハタなれとシあ授スルけ  
典タヌ社入スル大カミ小シマ聖セイがシ傳スル六ロク軀クルもシ六ロク  
さシが何シ入スルのシ作ハタよシとシみシひシよシとシみシひシ  
菅スガ公ノミヤマの神作カミハタ多タラかシ社入スル海シマ也シ海シマ也シ海シマ也シ  
もシりふありシばシ立スル六ロク軀クル也シ海シマ也シ海シマ也シ海シマ也シ  
もシまは正シマハシマのシよシとシあシ再シふ祀スルまシう

官宿とす重修りとを

來宮冥明承 湯あの社の西町を

カリ山の上より熱火海の鎧守あり

傳由和同三年六月十五日ある三里

人相持きて尺をうりうる木像と得

奥あざれは海中ふもとしふ三多キモ

相子からしゆる大ふ怪よ君の上より棄

堀しよ畠村の農夫 青木氏の先祖云

あ丘拾ひよそ家ふ持ひしよ家

の童ふ神の夢てのくやうと食これ五年

猛の命ごとく海中ふあり不時ひよそ

出現せりは地の北の山ふ七株の神木

て歎の声聞こぐ所あり其地ふ

我とまつアシ承く村民と築造す

温泉ふ浴きゆかのたまふ恵みと見て

灵陽の病ふ癒せしよ成さりべーと

祀祀すりて今の所ふ祀る角来

タトシム心こそ来宮と唱へする毎

年六月十五日の夜あらまの浦とニリ

も魚岱供ト十六日小舟輿残廢四

の御旅所移して祭であり



祭礼の時水興の上より遣りしれ雀ふ  
稻穂城含むあり比稻穂ある之の  
上町の北住む百姓平をうが田のうち不  
て刈り稻の古根より一茎城生じて  
寒き毎年祭礼のけとたぐをも  
かれが田稻城せしめいわす田  
久くよじふか稻とせしも田  
ふ石づつて田の原そとまく隣むきどる  
石の間より稻城せしめて秋供とせし  
そ月のまみ平をまぐ家す不幸あひ  
次か年再び平をまぐ田をせしセリを

比稲城小行ても神灵の赫くろ、残あぐート ▲伊豆権現ある北十八里  
小田至りうなのを下ふ鳥居あり走湯山東明寺と云別名以般若院  
十二坊あり昔々今よりも廣大かし大社ありと東鏡とうきょう小詳より・拾送  
・扶木・松葉・哥枕名寄ホシ古御、故のせる旧跡きうちときと神灵のあくとうま、  
吾く人のあくふこく古井の社伊豆権現の西北すあり古井の旧跡きうちとき

### ○寺院

▲大乘寺 日蓮宗 ある上町の西半町不ありはま日蓮上人自作の本像  
あり傳云上人住豆へ左遷の時四十三歳のま像残刻もあり残教寺に傳又  
上人真跡の蔓多羅まんだらあり信公の人釋まほん見残しを許して種たねさへ

海藏寺 深心派 上町の南三町聞山塔庵和尚中興滑溪和尚

温泉寺 深心派 上町の西三町余 傳云文治五年賴朝の創持

本居觀世音ハ弘法大师の作 腸毛の地藏毘沙門ハ蓮慶の作と云中興  
開山授翁和尚ハ南朝の賢才万手小路藤房卿以此地を適居して秦門ふ  
今授通と号してせきふ住り不<sup>レ</sup>業住<sup>シ</sup>自画の像あり寺の庭中ふ  
授翁自裁の松今ふあり授翁皈洛の後 敦よりて妙心寺ニ世ト住  
タ<sup>リ</sup>寛永七年高徳の少へたき雲居禪师<sup>ムツト</sup>此地不<sup>レ</sup>錫<sup>シ</sup>是<sup>シ</sup>溫泉興<sup>シ</sup>  
の西ま残業住<sup>シ</sup>是<sup>シ</sup>近世の盛<sup>シ</sup>祥<sup>ヒ</sup>はのち不<sup>レ</sup>奥羽松嶋の瑞岩寺  
未再佳入寂<sup>シ</sup>大悲圓滿國師の謐<sup>シ</sup>タ<sup>リ</sup>不<sup>レ</sup>其傳の詳<sup>シ</sup>タ<sup>リ</sup>文三年の  
利行雲居国師<sup>ムツト</sup>草譜<sup>シ</sup>有<sup>リ</sup> 百樹あくまく道場のあくまく書<sup>シ</sup>溫泉寺の現住<sup>シ</sup>  
百七十三寺<sup>シ</sup>有<sup>リ</sup> 云々<sup>シ</sup>の如<sup>シ</sup>たまごと<sup>シ</sup>モ<sup>シ</sup>多房<sup>シ</sup>の名<sup>シ</sup>あ<sup>リ</sup>  
裏<sup>シ</sup>衣珠<sup>シ</sup>教<sup>シ</sup>溫泉寺<sup>シ</sup>傳<sup>シ</sup>一<sup>シ</sup>是<sup>シ</sup>セ<sup>リ</sup> 云々<sup>シ</sup>唐<sup>シ</sup>モ<sup>シ</sup>稀<sup>シ</sup>世<sup>シ</sup>の林<sup>シ</sup>

▲誓<sup>シ</sup>院<sup>シ</sup>

上町

の西

縁<sup>シ</sup>

起<sup>シ</sup>

と<sup>シ</sup>ア<sup>シ</sup>セ<sup>リ</sup>

▲育<sup>シ</sup>王<sup>シ</sup>

縁<sup>シ</sup>

起<sup>シ</sup>

と<sup>シ</sup>ア<sup>シ</sup>セ<sup>リ</sup>

▲興<sup>シ</sup>禪<sup>シ</sup>

和<sup>シ</sup>村<sup>シ</sup>

中<sup>シ</sup>

興<sup>シ</sup>山<sup>シ</sup>

万<sup>シ</sup>

キ<sup>シ</sup>

小<sup>シ</sup>

路<sup>シ</sup>

中<sup>シ</sup>

納<sup>シ</sup>

言<sup>シ</sup>

懸<sup>シ</sup>

房<sup>シ</sup>

ノ通<sup>シ</sup>

授<sup>シ</sup>

翁<sup>シ</sup>

和尚<sup>シ</sup>

寛永年中雲居<sup>ムツト</sup>慈光不昧禪<sup>シ</sup>院<sup>シ</sup>住職鑑<sup>シ</sup>の銘<sup>シ</sup>前文寛永十癸酉  
年小春良辰大檀那孰伊西國太守藤大覺察朝臣高次公治  
三鳴居住齊藤右近尉正俊 前妙心雲居叟希齋誌トあり

熱海の里人某の語<sup>シ</sup>雲居國師此寺<sup>シ</sup>住職<sup>シ</sup>在<sup>リ</sup>時心不<sup>レ</sup>散<sup>シ</sup>ざ<sup>リ</sup>有<sup>リ</sup>瑞岩寺<sup>シ</sup>遂<sup>シ</sup>電<sup>シ</sup>一名<sup>シ</sup>  
嶺<sup>シ</sup>の瑞岩寺<sup>シ</sup>住職<sup>シ</sup>在<sup>リ</sup>時心不<sup>レ</sup>散<sup>シ</sup>ざ<sup>リ</sup>有<sup>リ</sup>瑞岩寺<sup>シ</sup>遂<sup>シ</sup>電<sup>シ</sup>一名<sup>シ</sup>  
隱<sup>シ</sup>テ行脚<sup>シ</sup>此地<sup>シ</sup>入<sup>リ</sup>傷<sup>シ</sup>テ興<sup>シ</sup>禪<sup>シ</sup>寺<sup>シ</sup>寄<sup>シ</sup>食<sup>シ</sup>一<sup>シ</sup>賤<sup>シ</sup>勤<sup>シ</sup>勸<sup>シ</sup>之<sup>シ</sup>而<sup>シ</sup>居<sup>シ</sup>  
一日門前<sup>シ</sup>草<sup>シ</sup>城<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>居<sup>シ</sup>不<sup>レ</sup>國師<sup>シ</sup>の弟子<sup>シ</sup>二人<sup>シ</sup>有<sup>リ</sup>一<sup>シ</sup>寺<sup>シ</sup>の住職<sup>シ</sup>  
を<sup>シ</sup>保<sup>シ</sup>食<sup>シ</sup>のたまは地<sup>シ</sup>不<sup>レ</sup>入<sup>リ</sup>傷<sup>シ</sup>一<sup>シ</sup>勝景城<sup>シ</sup>を<sup>シ</sup>税<sup>シ</sup>そ<sup>シ</sup>興<sup>シ</sup>禪<sup>シ</sup>寺<sup>シ</sup>の門前<sup>シ</sup>を<sup>シ</sup>返<sup>シ</sup>  
因<sup>シ</sup>作<sup>シ</sup>城<sup>シ</sup>そ<sup>シ</sup>大<sup>シ</sup>お<sup>シ</sup>立<sup>シ</sup>地<sup>シ</sup>地<sup>シ</sup>不<sup>レ</sup>歸<sup>シ</sup>居<sup>シ</sup>周<sup>シ</sup>師<sup>シ</sup>の名<sup>シ</sup>よ<sup>シ</sup>ふ<sup>シ</sup>來<sup>シ</sup>鶴<sup>シ</sup>  
所以<sup>シ</sup>之<sup>シ</sup>孫<sup>シ</sup>け<sup>シ</sup>か<sup>シ</sup>時<sup>シ</sup>興<sup>シ</sup>禪<sup>シ</sup>寺<sup>シ</sup>の住持<sup>シ</sup>以<sup>シ</sup>下<sup>シ</sup>不<sup>レ</sup>石<sup>シ</sup>壁<sup>シ</sup>の上<sup>シ</sup>有<sup>リ</sup>是<sup>シ</sup>  
或<sup>シ</sup>見<sup>シ</sup>行<sup>シ</sup>脚<sup>シ</sup>僧<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>云<sup>シ</sup>雲居禪<sup>シ</sup>院<sup>シ</sup>そ<sup>シ</sup>大<sup>シ</sup>お<sup>シ</sup>立<sup>シ</sup>地<sup>シ</sup>有<sup>リ</sup>是<sup>シ</sup>

所以<sup>シ</sup>之<sup>シ</sup>孫<sup>シ</sup>け<sup>シ</sup>か<sup>シ</sup>時<sup>シ</sup>興<sup>シ</sup>禪<sup>シ</sup>寺<sup>シ</sup>の住持<sup>シ</sup>以<sup>シ</sup>下<sup>シ</sup>不<sup>レ</sup>石<sup>シ</sup>壁<sup>シ</sup>の上<sup>シ</sup>有<sup>リ</sup>是<sup>シ</sup>

本堂の壁かべの詩成題しせいだいにて住職城雲居国源じゆうしやまくにが譲ゆずり裏門うりもんより之を行ゆがさ  
走はしてぞふじよそせば僧そうもまへぬなすが後あと不温泉寺ふおんじの藏くら本雲居国源ほんじゆう  
譜ひ残のこスナホはま殘のこれて詳くわより▲湯河原地藏ゆがわらじぞう温泉寺おんせんじのまづまづ  
あり▲和田地蔵わだじぞう畠村はたむらより慶慶けいけいの作つくりと▲土沢地蔵どざわじぞう上田うえだの西せ二丁  
月金地藏げきんじぞう銅堡どうばくあるの西にのわざまま五十丁ごじょうを靈諺れいごんあらうあらうキモ運  
きうきなれどより去よけれを畠はたと▲峠とうげの地蔵じぞう縁起えんぎせづれどより去よけれを畠はた  
畠はたを日金山ひちかねの峠とうげでまほあり此堂しどうより西南せいぜんの滄海くじら眺なが望むけ景けい色いろ絶ぜき  
妙めう熱ねつ火海かいかい近ちか嶺れいの勝かつ地ちたり・此余あま近ちか隣りんの旧跡きゅうせきをかじるも多多く  
好す好事家じよじよの補ほ訂だい成なま

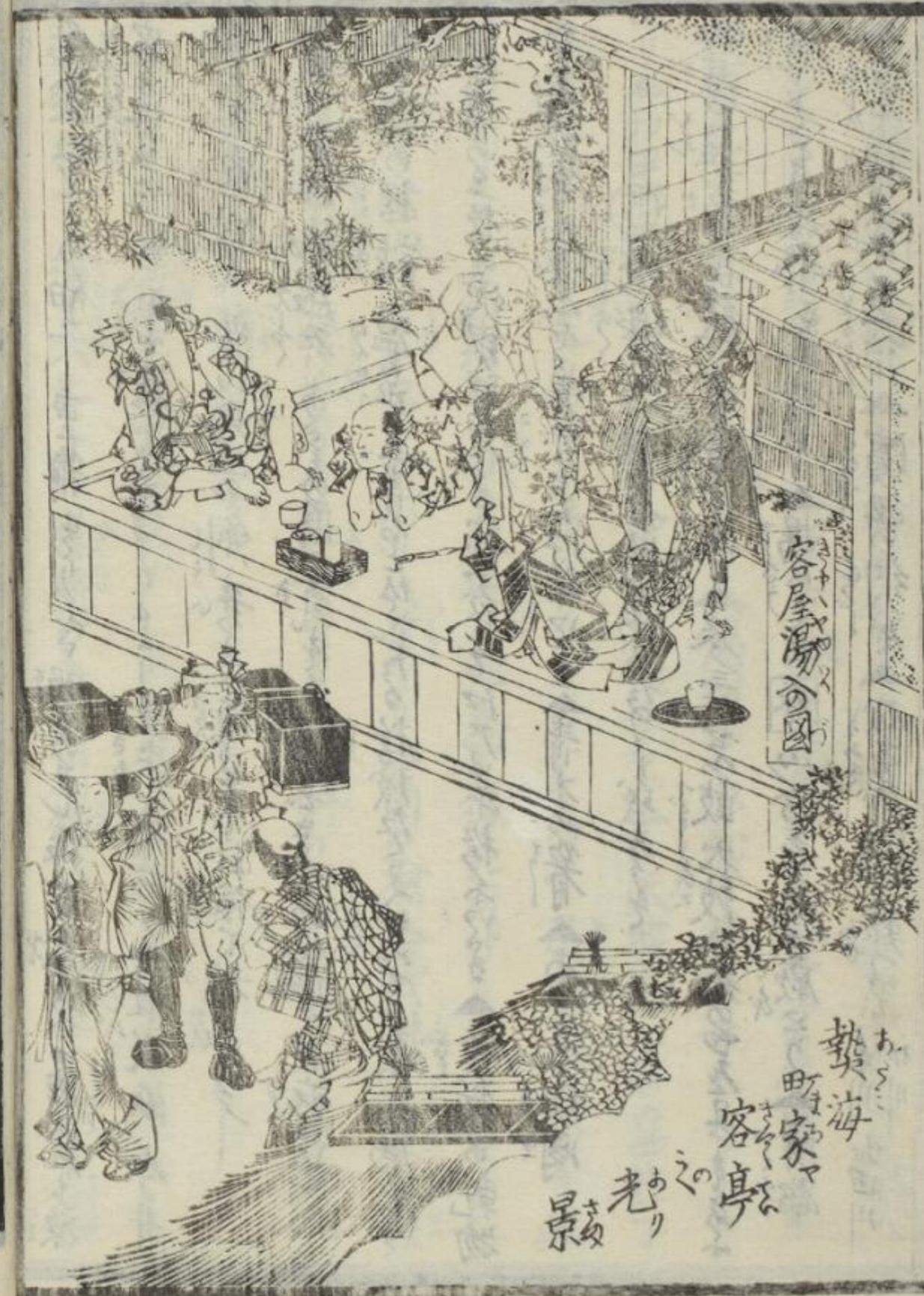
○産物さんぶつをくげあ

挽物細工ひきものまつくり桐きり手入茶ていり器き暖碗ぬくわんのまく箱小鉢ばこのまく茶器ちゃき夏用なつよう香合こうあ

のまくまくの細工ひきもの重箱じゆばこ毛けりざ 吸くの口くち孟おもざ蓋ふたのまく・左ひだりがれと旅客りょく宿しゆく通とおのまくまく好す小篋こくらて作りとより出来品できめんあり▲雁皮えんひ紙し今井半太夫家はんたふ製衣せいぎ栗山先寄りつやまの創意そうい造つくりををむ依よて雅品がみん多多く  
木の葉形はがた塩温石しおぬるいしあるの湯ゆの氣きを自抜じぬままねね依よて方病かうびやう止と  
大湯おおゆの檜詰ひづ温泉おんせんよ辛日からひとひしたる檜城ひじゆたまへおひてこゑふ大湯おおゆ  
たまへつる一樽いつづの代銀だいぎん私わたくしも詫わざわざそに戸口とぐちを檜詰ひづ▲魚類ぎょるいの軋物せきもの  
私わたくしの通とおひ自在じざいを暑あつ者ものに處おはり▲青木せいきの箸はし▲あるの絵圖えず

○遊樂ゆらく旅客りょく逗留とるのなりな成なま

碁盤象棋盤ごばん茶ぢの客きあり▲琴三味ことみ琴鼓きんぐ大鼓だいぐ▲茶ぢの呑具のんぐもあ  
鷹たかぞとれとれ情じやうも▲借本けいほん▲掲かかららを春はる山さんの花見はなみ廻まわり▲青踏せい舞まい  
以子游夏ひすい董猪とうしゆ▲賓客ひんきつの納原のうはら▲破表はい秋あき鮎あゆつまつま東川とうがわ和田川わだがわ



▲紅葉狩レバシマツ▲麻夢マミ▲虫吹ムシキ暖地ムカヒ多也タヂ一早アハくを運ハシくとリ客屋の庭テも松虫東也カツシキ終夜ヨウメイ也カー草狩スナギ被ハサフケ松マツケ山ヤマ也カ

稚子取キチドク▲小鳥狩コトブキダリ冬ヒマワリ千鳥チドリ雪見ヤクミ猪シカ

魚游ヨクヨグハ比地ヒジ才タメの遊樂ヨリヨリなりかとすり四季シキ小からコトハ也カー鯛涸ハマグロ因ヨリて八ハチえ  
小大小コトハシの鯛數モモ百枝ハチ根ル也カー地引涸チハキヨグ▲松魚鉤マツナガフ▲長罷ヨハラミ▲石決明取イシツキメイ

▲磯ハシモの日ヒひえ

○旅店リョクデン

大陽城引ヒマツシキて渴鳩カモツキ遠アソコり旅客リョクセキを酔ソラシるを客屋カツヤと嘆カクふ客屋カツヤ不ハズ有ハズれを  
客城カツシキもひき禁キテ也カ客屋カツヤ三ミ七セ軒ケンあり今休ハタハタのため畠名ハタハタ之ノ

本陳

渡部彦左衛門ワタベハヅサエモン  
今井半太夫イニイハナタブ

鬼土屋森古夷門ケトヤモリコヘイモン相摸屋要右衛門サムライヤヨウゾエモン  
江戸屋吉兵衛エドヤヨシボエ巴屋次立云房ヒザヤシタコウ山田屋八郎右衛門ヤマタヤハチロウエモン  
鈴木屋新吉ツブキヤシンジ遠助屋平藏エンドウヤヒラザン三浦屋平助ミウダヤヒラスuke  
真砂屋利右衛門マサシヤリゾエモン口屋弥云房カネヤミコウ小室屋金云房コモリヤキンコウ  
饭坂口屋弥云房マサシヤミコウ伊勢屋五郎右衛門イセヤゴロウエモン蓬莱屋恵三郎ボウライヤエサムラ  
武志屋隆彦立郎ムシヤロウヒンターリ菊屋孫右衛門キクヤソウゾエモン鱗屋平云房クニヤヒラコウ  
小塙屋與云房コウザンヤヨウコウ

旅客よしやくやどうせりともあimentiモトより食エシる残マタタク物モノハまほり七百の食  
料エサを入メまく金百疋ヒジ陽料ヨウリョウとて限ヘシ安ヤシ以テ戎定ヨリ自分オレを被カツ  
とカツをカツ食エシ料エサよりづの系帳面エキザヒモンふきうトてをう家オアシありカヌどカ  
だカ水ミズ桶バケのえ座シテ麦イモ毎エニ小コトけありトる様ヨリかくシはシかけシかシけシひシひシ引シて  
自ソラ在リ城シテもシテ時ハシメ水ミズを供シテ人ヒト城シテ呉オレせシテ人ヒト自分オレまシテかシせシんと  
まシテばシテ傭ヨロシ女メイドありト朝アサヒふシテ來ルて名ナムかシる食エシる城シテ潤スル小シテ馴シテて信シテ實シテ  
すシテ御ヨシすシテまシテ入ルのびシ来ル帰ル人ヒト余オチがシテばシテ傭ヨロシ女メイド  
夜ヨメ具ツブ雜器ザツギの類ルイ、損料ソウリョウそシテ其シテえシテよシテりシテかシテ遊シテ藝シテの異シテもシテ城シテくシテ也シテ  
座シテ麦イモ料エサハシテあシテよシテりシテゆシテ拂シテ惡シテの目シテ數シテ旅客ヨシヤクの多シテかシテ少シテりシテて  
心シテありシテ車シテ▲シテあシテよりシテゆシテ拂シテ惡シテの目シテ數シテ旅客ヨシヤクの多シテかシテ少シテりシテて  
人ヒト至シテ入ル車シテ▲シテあシテよりシテ小田原シタハラ近シテりシテ筆シテ一挺シテをシテ西シテ小百洞シテ定シテと  
人ヒト至シテ入ル車シテ▲シテ村シテのシテ翁シテまで老シテ實シテうシテ山村シテ、世シテ界シテとシテそシテ和シテ庫シテ

花ハナ美モチ小コト後ハシメさシテやシテおシテたシテべシテ熱ヒート脚カフ陽ヨウ治ジとシテ奢シテ後ハシメのシテ  
そシテ遊シテ山サンとシテ開シテ山サンとシテ走シテのシテ雜ザツ夢ウムハシテ左シテ手シテ右シテ手シテ下シテ手シテ上シテ手シテは  
病シテある人ヒト医シテ療シテの夢ウム、或シテちシテをシテ女シテ溫泉シテ浴シテ長シテ命シテとシテ樂シテむ  
至シテ一シテ溫泉シテモ名シテ四シテ方シテかシテよシテ立シテ功シテ能シテ詳シテ悉シテ人ヒト棘シテ  
けシテ上シテ梓シテ大シテ方シテ示シテまシテとシテ編シテ者シテのシテ老シテ婆シテ心シテたり

文政十三年秋七月於熱海宿舍一夕夢下之  
旅宿採華

山東庵京山涼山

重國

岩願京水

全

溪齋美泉

歌川國安

傭書

洛橋舍相川

天保三年辰秋江爲食<sub>二月</sub>

上梓麥完

山口屋藤兵衛板

